

四十九番札所)・新洞天満神社・大師庵(土砂塚)・新洞観音庵(十一面観音、勢至観音)・間の愛宕將軍延命地藏(椿三本の内一本は胸高の周り一米四五糎)・江河内の安穩山西禪寺(宝林山正禪寺末庵、本尊阿弥陀如来、佐伯四国第五十番札所)・石工平兵衛の墓(タカラク井手頭首工)・西禅庵の手洗鉢(石)・専念寺の石垣(神原甲斐庄屋石垣等に銘記あり)・霧島神社(祭神可美葺牙彦命外八柱)・道越の天正年間の墓石、供養塔・水口天満神社・佐藤大庄屋跡・庄屋墓地・奉樹庵・薬師庵(みな「水」口に唱えて仰ぐ薬師庵如来大師の御作と聞くとこの古歌がある)・芝原探題屋敷跡と墓石。

昭和54・3・28 日出・杵築の研修旅行
 昭和54・9・1 上直見芸能保存会により伝承されている「風流杖踊り」が村の無形文化財に指定を受ける(会長 休石博美)
 昭和54・10・7 薩軍兵士の墓発見。休石副会長より赤木吹原に薩軍兵士の墓が発見された旨の連絡があったので、事務局が調査した。次のような墓石が百年目に漸く明るみに出た。(佐伯史談第一二二号に発表)

正面 明治十年
 鹿兒島県土族肥後幸左エ門墓
 丑六月十九日
 享年三拾六歳

右側 諱盛屋俗称幸左エ門
 姓肥後民鹿兒島県土族
 明治十年六月十九日

左側 大分県於赤木村戦死
 昭和55・2・26 村教育振興協議会による文化財研修会実施。「直川の文化財」と題した十五頁の資料を配布し、史談会員が説明、文化財に対する関心を深める。

昭和55・3 村指定文化財の案内標柱を設置)県道赤木吹原佐伯線の沿道に六本設置する。

以上直川史談会のあゆみを列記したが、貴重な文化財が多数あり、その保存に万全を期さなければならぬ。尚これから特に意を用いたいものに、次のものがある。

1. 惟治主従の武具を祀ってあった安藤家の「神の間」は、修理が迫っているので、早急な対策を考えたい。
2. 天文十四年佐伯惟定と薩將土持親信が戦った赤木の木ノ原古戦場には、

次のような千人塚(塔身一・五九米)が建てられていて、道の内の安藤家(克己氏)が管理しているが、基礎不十分なため倒壊の危険がある。

寛文三年
 碑銘 空風水地埽元岸法宗禪定門冥位
 八月廿六日

3. 天保十年明石秋室の作詩した「堂師坂」の詩碑と、陸地峠に西南戦役の碑を建立する計画の推進を図りたい。(終)

十三重の塔 (説明板による)

この塔は基壇四面に二個づつの優雅な格狭間を持つ台座、四面に優麗な阿弥陀三尊仏が陽刻されている。初重軸部、そしてその上に四方仏を持ち、軒反はまことに優えんである。端正な安定感にあふれる層塔、中空高くそびえる相輪、この壮麗な姿は近隣に稀なる層塔として観賞されている。この層塔は形式から見て鎌倉期まで遡ると言われ、中世この地に拠っていた佐伯氏の造立であろうと推定

(55ページにつづく)